

『タリタ・クム』

マルコによる福音書5章21～43 久野真一郎

マルコによる福音書5章21節以下には、行く手を阻まれる中で、主イエスによる救いに与った二人の人のことが語り告げられています。すなわち一人は、会堂長のヤイロという人であり、今一人は12年間も出血が止まらず苦しんでいた女性です。

まず後の方の女性に思いを向けましょう。彼女は主イエスの服に触れただけで癒されました。しかし事はそこで終わっていません。もしそこで終わっていたとしたら、単なる魔術的な癒し物語ということになっていたでしょう。しかし主イエスはこの時、彼女との人格的な出会いを求められたのです。「わたしの服に触れたのは誰なのか？」とおっしゃいました。彼女は進み出てすべてを話します。その語らいの中で、彼女は大いなる慰めと望みに満たされるのです。恐れと期待を交叉させつつ、この小さな存在に目を留めてくださいと主に迫ったそのひたすらさの中に、主イエスは彼女の信仰を見られました。彼女は「娘よ、あなたの信仰があなたを救った。安心して行きなさい！」とのみ声を聴いたのです。道を塞がれていた彼女はこのとき、新たな信仰の歩みへと旅立っていきました。

次いで会堂長ヤイロに目を転じましょう。道を急ぐ途中での思わぬ事の成り行きを、彼がどのような思いで見守っていたのか、察するに余りあります。しかも家からは「お嬢さんは亡くなりました」との非情な知らせがもたらされたのです。「すべてが遅すぎました…」と誰もが思ったに違いありません。しかし主イエスにおいて“遅すぎる”ということがあるのでしょうか。ほかならず主イエスご自身がその場に臨んでおられるのです。主はあの十字架の死において徹底的に貧しくなられました(2コリント8:9)。すなわち主は、死という虚無と絶望の淵に身を置かれたのです。そして復活して死の扉を開いてくださいました。

今その方がわたしたちにも「あなたの信仰があなたを救った。安心して行きなさい！」また「タリタ・クム(少女よ、起きなさい)！」と言ってくださっています。一人の女性とヤイロの娘の身に起こったことは、わたしたちが主の復活のいのちに与るしるしにほかなりません。揺るぎないこの希望によって生かされたいものです。